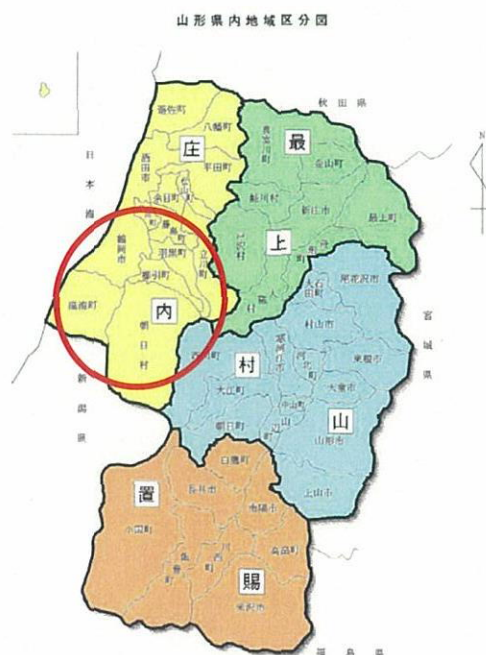


在宅医療連携拠点事業

鶴岡地区医師会

地域の背景

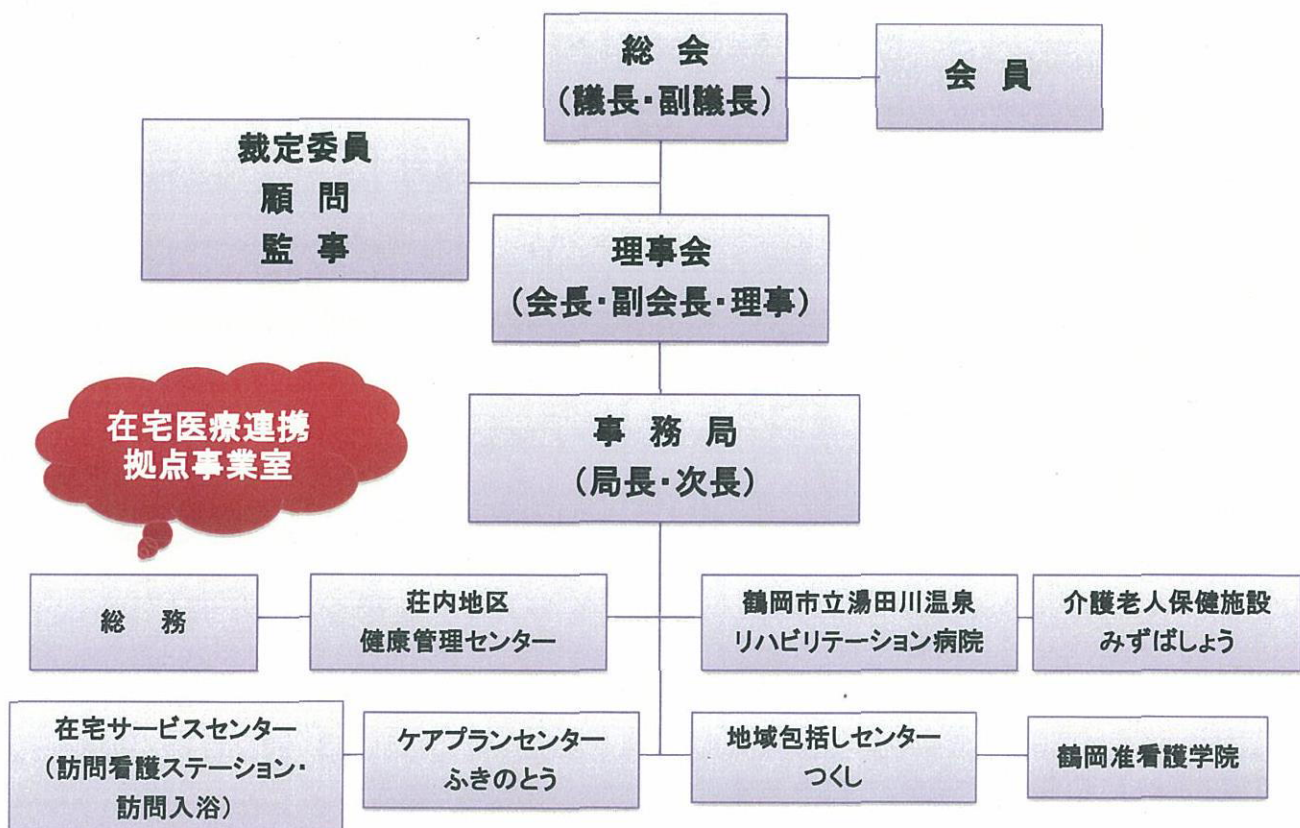
- ▶ 医療圏：山形県鶴岡市・三川町（南庄内）地区
- ▶ 人口約16万人、面積1324平方キロ
- ▶ 地区内の医療機関
 - ▶ 病院：8
 - ▶ 診療所：85
- ▶ 中核病院：市立庄内病院（520床）



山形県鶴岡地区医師会の概要

- ▶ A会員：84名 B会員：103名 準会員：4名
- ▶ 医療機関数 93 (診療所:85 病院:8)
 - ▶ 中核病院：市立荘内病院
- ▶ 健康管理センター（健診、臨床検査）
- ▶ 在宅サービスセンター(訪問看護・訪問リハビリ、訪問入浴)
- ▶ ケアプランセンター、地域包括支援センター
- ▶ 准看護学院
- ▶ 湯田川温泉リハビリテーション病院
- ▶ 介護老人保健施設 を運営
- ▶ 職員数：414名(7月1日現在)
- ▶ 事業収入：約30億/年

鶴岡地区医師会組織機構



在宅医療連携拠点事業室とスタッフ



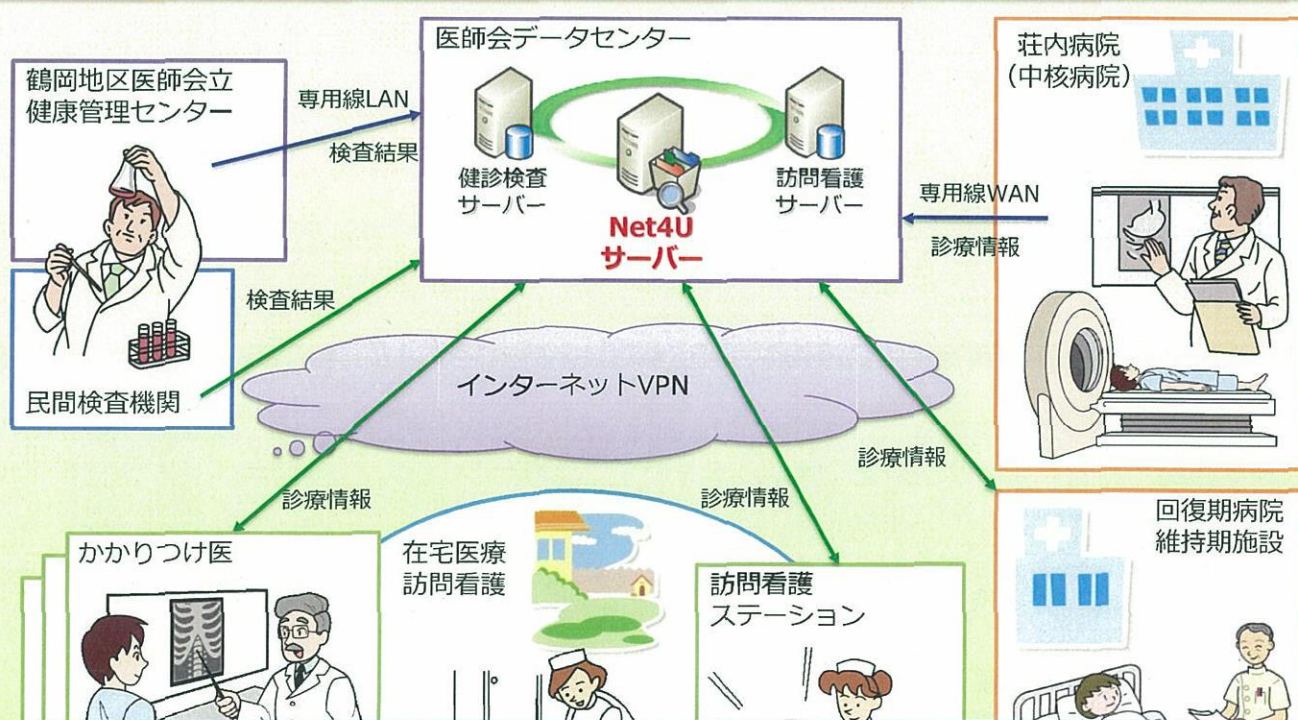
その他の介護サービス事業者

- ▶ 居宅介護支援 : 35
- ▶ 特養 : 10
- ▶ 老健 : 4
- ▶ デイサービス : 44
- ▶ デイケア : 7
- ▶ ショートステイ : 20
- ▶ 訪問介護 : 35
- ▶ 訪問入浴 : 6
- ▶ グループホーム : 18
- ▶ 小規模多機能型 : 7

当地区の在宅訪問診療の特徴

- ▶ 在宅専門の診療所はない
- ▶ かかりつけ医が訪問をするケースが多い
- ▶ 訪問範囲については、比較的すみわけができています
- ▶ 地域電子カルテシステム「Net4U」を活用している
(23年4月現在 156名中71名 45.5%)
- ▶ OPTIMに参画し、在宅緩和ケアの普及に取り組んでいる
- ▶ 医師を中心とした在宅医療を考える会を立ち上げ活動中
- ▶ グループ診療（主治医・副主治医制）体制は確立していない
- ▶ 鶴岡地区医師会が多くの居宅系サービスを提供している

地域医療連携ツール「Net4U」のしくみ



セキュリティの保たれたネットワーク上で
地域の様々な医療者が患者情報を共有できるツール

在宅緩和ケアにおけるNet4Uの活用

訪問看護師は、訪問後、処置内容や連絡事項を記載

在宅主治医の訪問時の記載と処方内容

訪問診療の現状（2010年7月30日現在）

▶ 診療所

- ▶ 訪問していた診療所 37施設
- ▶ 診療所の訪問件数 510件
- ▶ 訪問（往診）可能と答えた診療所 63施設（調査対象の74.1%）

▶ 訪問看護事業所

▶ A事業所（医師会立） サテライト3箇所

- ▶ 看護師 16名（内2名は産休中）
- ▶ 作業療法士 4名、理学療法士 4名、
- ▶ 看護師非常勤 2名
- ▶ 訪問実績 303件

▶ B事業所 サテライト1箇所

- ▶ 看護師 11名
- ▶ 訪問実績 187件

連携を目指した各種の会の活動

- ▶ **南庄内在宅医療を考える会**
 - ▶ 対象：在宅医と勤務医が中心
- ▶ **庄内地域医療連携の会**
 - ▶ 対象：多職種と連携実務者
- ▶ **医療と介護の連携研修会**
 - ▶ 市主催、対象：病院看護師とケアマネが中心
- ▶ **つるやくネットワーク**
 - ▶ 対象：病院薬剤師と調剤薬局
- ▶ **南庄内 栄養と食の連携を考える会**
 - ▶ 対象：病院および地域の（管理）栄養士
- ▶ **医療福祉連携活動報告会**
 - ▶ 各種連携の会の報告会
- ▶ **フラットの会**
 - ▶ 多職種による合同懇親会
- ▶ **その他**
 - ▶ 緩和ケア症例検討会
 - ▶ キャンサーボード
 - ▶ 緩和ケアスキルアップ研修会
 - ▶ 病院勤務医と医師会（診療医師）との懇談会

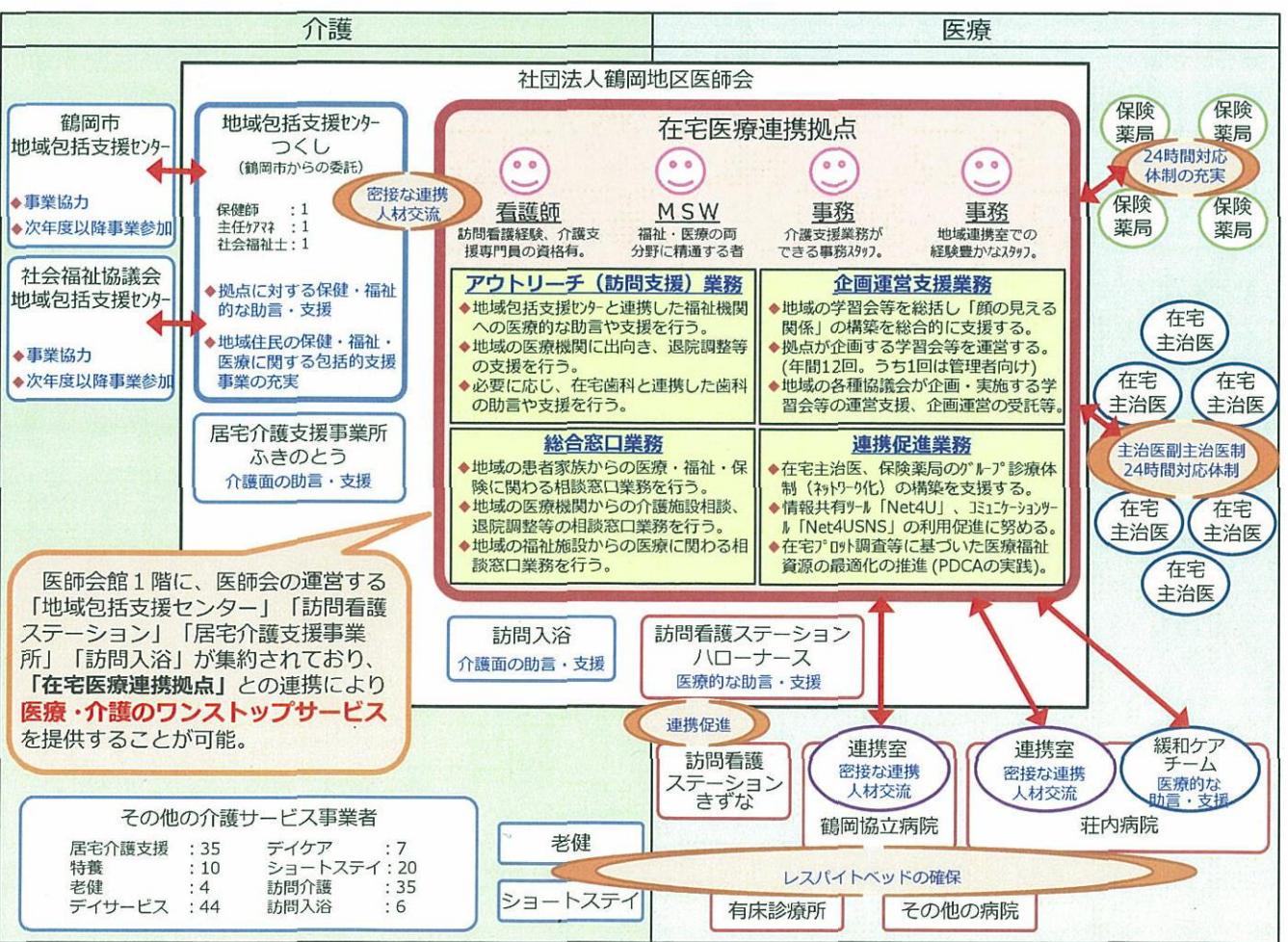


当地区における在宅医療・介護の課題

- ▶ **職種間での連携、情報共有不足**
 - ▶ 在宅医とケアマネ・ケアスタッフ
 - ▶ 病院と地域（病院における在宅の視点の欠如）
 - ▶ 病院薬剤師と保険薬局
 - ▶ （管理）栄養士との係わりがほとんどない
 - ▶ 歯科医への相談窓口がない
- ▶ **ケアマネのスキル不足**
- ▶ **医療依存度の高い利用者の施設での受け入れ困難**
- ▶ **訪問看護、訪問リハのマンパワー不足**

“拠点”に求められる業務（機能）

-



在宅医療連携拠点事業室アクションプラン

目標：多職種連携の契機役として、利用者・家族が安心して過ごせる在宅医療の支援体制を築く。

アクションプラン	課題	目的	具体内容	備考	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画・運営 支援業務	病院看護師からケアマネの業務が理解されていない。	病院看護師への在宅医療・介護についての提供方法や情報提供。	①院内病院、協立病院に出向き医師や看護師を対象に1回ずつ開催。 ②主任ケアマネに依頼し、在宅介護の現状を講演してもらう。	研修を行って理解が深まったか等を把握するよう、アンケートを実施する。					①主任ケアマネへの依頼の日程調整し、院内へ研修のお願いをする。	院内病院にて講演	協立病院にて講演					
	医療依存度の高い利用者への理解と受け入れ先の必要性。	①受け入れ先が抱える問題を把握し、どのようにすれば受け入れられるのかを調査する。 ②理解を深めるため、専門医師や看護師等に依頼し、講演してもらう。	①事前にアンケート取り、受け入れの現状や、抱える問題などを把握し、研修会で報告する。	サービス事業所対象					医療依存度と認知症						報告会	
	各種連携の会への参加と情報収集。	在宅医療連携拠点事業のPRと地域連携の課題の抽出・各研修会の活動内容の把握。	①多職種とコミュニケーションをとるためにも、津浦段階より参加させていた。 ②各研修会で拠点室のチラシを配布し、集積内容や活動内容を報告する。 ③研修会の内容を把握し、その中で地域連携の課題を抽出しまとめる。						・区内地域連携の会 ・全県と東に協力する会 ・市内在宅医療を考える会	・第1回医療者と介護の連携研修会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会	・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会 ・市内在宅医療を考える会
総合窓口 業務	多職種間の連携しを行うワンストップ窓口が無い。	多職種間の連携しを行うワンストップ窓口を目指す。	①総合相談窓口になるべく、調査票を作成し地域資源のリーサーを行い、情報を収集する。 ②出来る範囲で多職種にも調査票を提供できるようにする。	①地域内にある様々な調査票を整理し必要な情報を集める。 ②多職種にどのような情報が必要なのかリーサーし、調査票に取り込んでいく。 ③事業の紹介チラシを持参しながら訪問調査を行う。					調査票の集まりと訪問調査							市統計課に内訳のまとめ
	在宅歯科医・歯科衛生士の関わりが少なく、窓口がはっきりしない。	在宅歯科の窓口がないため、システム作りの支援。	歯科医師会へのシステム作り							医師会と歯科医師会の協議						
連携促進 業務	Net4Uの利用促進の必要性。	活用促進とPR Net4Uの利用者数を調査し、評価する。利用しない理由もアンケート調査する。	①研修会でのNet4UのPR ②調剤薬局・ケアマネへの導入促進	Net4U紹介のホームページ作成。					薬局・調剤薬局・ケアマネへのNet4U説明	ケアマネへのNet4U利用開始	Net4U在宅医療利用者の調査、評価、研修会へのアンケート調査					Net4U在宅医療利用者の調査、評価
	ケアマネと在宅医の連携不足。	ケアマネと在宅医の連携を強化する。	①医師へのアンケート調査 ②主治医とケアマネの連携支援シートの作成 ③担当者会議への医師の参加呼びかけ							医師へのアンケート調査	連携シート作成					
アウトリーチ 業務	病院での在宅医療への視点不足。	退院前カンファレンスへの参加、助言、関連職種への周知。	①密着機関での退院支援の実態把握し課題を抽出。 ②退院支援に対して助言を行う。	協立病院へは連絡済。					市内病院退院カンファレンスへの参加							
	在宅医療・介護の質であるケアマネのスキルアップが必要。	在宅医療・介護の質であるケアマネのスキルアップを目指す。	ケアマネへの研修費と研修内容を一緒に企画していく。						ケアマネへの研修	ケアマネへの研修						